

# 「つくる会」自由社の歴史教科書8区で採択

横浜市教育委員会は4日、2010・2011年度に中学校で使用する教科書の採択を行い、「新しい歴史教科書をつくる会」のメンバーが執筆した自由社発行の歴史教科書が8区で採択されました。他の10区では現在使用している教科書で、扶桑社の歴史教科書は採択されませんでした。

○自由社の歴史教科書が採択されたのは、  
港南区、旭区、金沢区、港北区、緑区、  
青葉区、都筑区、瀬谷区の8区です。

教育委員会の傍聴には225人が集まり、抽選で20人が直接傍聴、抽選にはずれた人たちは教育文化センター大ホールで音声のみの傍聴を行いました。

「つくる会」の歴史教科書の採択に反対する市民のみなさんは採択終了後、開港記念会館で報告集会を開き、「横浜市教育委員会の自由社教科書採択についての抗議声明」を発表しました。

日本共産党横浜市議団は、採択に関する声明を以下のように発表しました。

2009年8月4日

## 横浜市の教科書採択に関する声明

日本共産党横浜市議員団  
団長 大貫憲夫

本日の横浜市教育委員会の会議で、中学校の歴史教科書として18区中8区で「新しい歴史教科書をつくる会」の自由社版が採択されました。自由社の歴史教科書は太平洋戦争を「自存自衛」のための戦争と描くなど、日本の侵略戦争美化の立場にたっています。戦後日本の原点は、侵略戦争と植民地支配の反省とその誤りの清算にあります。その否定ともなる教科書については、国内外から厳しい批判があがっているところです。採択した教育委員会の責任は極めて重大です。近隣のアジア諸国との友好関係の発展を著しく阻害し、国際交流都市・横浜としての信頼も損なうこととなります。なによりも子どもたちにゆがんだ歴史観をおしつけることは、断じて認めるわけにはいきません。

今回の採択にあたっては、これまで守られてきたルールを無視して強行された点も重大です。教科書を調査・検討する教科書取扱審議会の答申は、区毎に、学習実態を踏まえ、望ましい教科書として5～6点の基準に示し、もっとも相応しい教科書を基準ごとに選んでいます。自由社が採択された8つの区での答申は、自由社がもっとも相応しいとした基準は1点だけでした。それ以外の基準では、自由社以外の2社がもっとも相応しいとしています。しかも、答申は、自由社については、「他民族の生活や文化の扱いがやや弱く、生徒の多様な見方や考えを育てるにはやや適さない」と問題点を指摘しています。

4年前の採択時に、当時の教育長は、「横浜市の採択手順として、審議会の答申にもとづく案を尊重したい」との毅然とした態度をとりました。しかし、今回は教育長からはその言明はありませんでした。こうした運営をすすめた教育委員長と教育長には、教育行政に携わる資格という点では、失格といわざるをえません。

横浜市教育委員会は、今回の教科書選定を振り出しに戻し、採択の手順にそって、歴史教科書の選定をやり直すことを強く求めるものです。